

ISSN 1881 - 980X

日本科学教育学会

Japan Society for Science Education

発行：吉田 淳

事務局：愛知教育大学理科教育講座 内

URL : <http://www.jsse.jp>

2012.2.15

NO.206

科学教育研究レター



目 次

年会

第 36 回年会開催案内 (第 3 次) 2

年会論文集執筆要領 6

若手の会

第 36 回年会での会合 10

若手の会メーリングリストのご案内 10

研究会・支部だより

平成 23 年度第 6 回研究会
(北陸甲信越支部担当)のご案内 10

2012 年度学会賞候補者の募集 11

編集委員会だより 13

国際交流委員会だより

国際学会情報 14

広報委員会からのお知らせ 14

第 36 回年会 開催案内 (第 3 次)

第 2 次案内から、「7.(1) シンポジウム」「8. 課題研究の申込・原稿提出」「9. インタラクティブセッションの申込・原稿提出」「10. 一般研究発表の申込・原稿提出」がアップデートされています。

1. 年会テーマ：

テーマ：次世代の科学力を育てる：社会とのグラウンディングを進展させるために

趣旨：「次世代の科学力を育てる」というメインテーマは、現代の科学教育において重要課題であるため、第 33 回年会から引き継いでいます。今回の年会では、これまでの年会の成果を踏まえて、「科学力」を社会全体に根付かせること（グラウンディング）を進展させるために求められる科学教育の諸要件について議論します。

2. 日程：2012 年 8 月 27 日（月）～29 日（水）（3 日間）

3. 会場：東京理科大学 神楽坂校舎

（〒162-8601 東京都新宿区神楽坂 1-3）

<http://www.tus.ac.jp/info/access/kagcamp.html>

4. 主催：日本科学教育学会（後援：未定）

5. 年会実行委員会：

[実行委員長] 澤田利夫（東京理科大学）

[実行副委員長] 小川正賢（東京理科大学）

[事務局長] 清水克彦（東京理科大学）

[年会論文集担当] 川村康文（東京理科大学）

[委員] 北原和夫（東京理科大学）、井上正之（東京理科大学）、武村政春（東京理科大学）、
渡辺雄貴（首都大学東京）

6. 連絡先：〒162-8601 東京都新宿区神楽坂 1-3

東京理科大学・理学部数学科・清水克彦研究室

日本科学教育学会第 36 回年会実行委員会

Tel & Fax 03-5228-8718

JSSSE2012 [at mark] rs.kagu.tus.ac.jp

7. 内容

次の内容を予定しています。

(1) シンポジウム

テーマ：次世代の科学力を育てるための教員・指導者養成

趣旨：第33回年会より、「次世代の科学力を育てる」という年会のメインテーマをめぐって、シンポジウムを開催してきました。第33回から前回の第35回年会にいたるまで、学会の外部の専門家を招くことで、社会から本学会が何を期待されているかについて議論を重ねてきました。これまでの議論を発展させるべく、今回の第36回年会のシンポジウムでは、学会の内部の専門家に登壇頂き、今後、社会に向けて本学会が何をなすべきかについて議論します。とりわけ、今回のシンポジウムでは、「教員・指導者養成」に焦点を当て、次世代の科学力を育てるために必要となる教員・指導者養成のあり方について考察します。

(以下、敬称略)

司会

- ・吉川 厚(東京工業大学)

登壇者

- ・長崎栄三(静岡大学): 数学教育の立場から
- ・小倉 康(埼玉大学): 理科教育の立場から
- ・大谷 忠(東京学芸大学): 情報教育・技術教育の立場から
- ・小川義和(国立科学博物館): 博物館・科学館/サイエンス・コミュニケーションの立場から

指定討論者

- ・猿田祐嗣(国立教育政策研究所)
- ・美馬のゆり(公立はこだて未来大学)

(2) 招待講演「科学教育研究セミナー」

特定分野でアクティブに研究を進めている先生方をお招きし、会員向けに専門的なお話を聞かせて頂く招待講演です。

昨年の学会賞受賞者でもある加藤 浩(放送大学)学会員にご講演頂きます。

(3) 課題研究

前回の第35回年会と同様に、学会企画と自主企画を統合し、学会員から多様な研究テーマに関する企画を募集します。

(4) 年会実行委員会企画セッション

「次世代の理数力を育てる理数教育の研究(仮)」というテーマの企画を予定しています。

(5) 一般研究発表

例年通り、1件の発表の持ち時間は20分(発表15分、質疑5分)です。

(6) インタラクティブセッション

例年通り、ポスター発表もしくは実演紹介の形態で、研究内容についてインタラクティブにじっくりと語り合う場です。

(7) その他の企画：総会、懇親会、若手の会、各種会合など

8. 課題研究の申込・原稿提出

特定のテーマについて徹底的に議論できる場です。企画をお持ちの方は応募をお願いします。

<スケジュール>

- ・企画受付締切：2012年5月7日(月)【オーガナイザー 年会企画委員会】
- ・受理審議：2012年5月8日(火)～5月17日(木)【年会企画委員会】
- ・審議結果報告：2012年5月18日(金)【年会企画委員会 オーガナイザー】
- ・登壇者の最終確定：2012年5月31日(木)【オーガナイザー 年会企画委員会】
- ・原稿提出期限：2012年6月30日(土)【オーガナイザー 年会企画委員会】

<企画応募方法>

応募に当たっては課題研究申請用紙及び理由書を課題研究の Web ページからダウンロードして、必要事項をご記入の上、送ってください。

<企画応募先>

[jsse-kadai \[at mark\] freeml.com](mailto:jsse-kadai[at]mark[freeml].com)

<応募に当たっての留意事項>

- ・オーガナイザー資格：会員でなければなりません。
- ・登壇者（指定討論者含む）の確定：登壇者を企画受付締切までに確定してください。登壇者未定の企画は受理されません。なお、課題研究発表での登壇は1回となりますので、登壇者を依頼される際にはご留意願います。また、登壇者の重複はできません。登壇者を依頼される場合には、当該登壇者が他の課題研究のテーマにおける発表と重複されていないかどうかについて、登壇者自身に対して発表の重複ができない点を周知した上で、確認してください。
- ・登壇者資格：登壇者は会員、非会員を問いません。ただし、非会員による発表件数は、原則として全発表件数の半数を超えないものとします。やむを得ずに半数を超える場合は、企画受付締切までにその理由を申請用紙に添えて申し込んでください。非会員の発表件数が全発表件数の半数を超えた場合で理由書の添付されていない企画は受理されません。非会員の発表件数が全発表件数の半数を超えていて理由書が添えられている企画について受理するかどうかは、年会企画委員会で審議いたします。非会員による発表件数が企画受付締切時点（5月7日）で全発表件数の半数を超えておらずに受理された企画であっても、受理後にやむを得ない事情によって登壇者の変更がなされた結果、非会員による発表件数が全発表件数の半数を超えた場合には受理は取り消されますのでご留意願います。

ここで言う「会員」とは、学会事務局が入会申込書の受付（7月からの新年度入会のための申込書の受付を含む）を済ませていることを意味します。ただし、入会申込書の受付を済ませた者の入会時期（入会手続きの完了時期）については、課題研究の企画受付締切日と年会開催日程が学会の事業年度（毎年7月1日から翌年6月30日）をまたぐ場合、企画受付締切日の年度ではなく、年会が開催される新年度からの入会でも可とします。

<第35回と異なっているので注意頂きたい点>

- ・一次受付がありません。
- ・オーガナイザーは、ご自身で課題研究の Web ページから課題研究申請用紙及び理由書をダウンロードしてください。
- ・入会申込書の受付を済ませた方の入会時期が、課題研究の企画受付締切日と年会開催日程が学会

の事業年度（毎年7月1日から翌年6月30日）をまたぐ場合、年会被開催される新年度からの入会でも可となります。

9. インタラクティブセッションの申込・原稿提出

(1) 申込及び原稿提出の期限

2012年6月30日（土）

申込と原稿提出を同時に行ってください。

申込及び原稿提出の受付開始日は、決まり次第、学会 Web や科学教育研究レターなどでお知らせします。

(2) 申込及び原稿提出方法

申込者が直接、下記 URL からアップロードしてください。

詳細は「日本科学教育学会 年会論文集 執筆要領」に従ってください。

<https://dev.faeg.jp/jsse/nenkaimenu.php>

(3) 発表資格・発表可能件数

インタラクティブセッションの登壇者は会員でなければなりません。

登壇者として発表可能なインタラクティブセッションの件数は、1件です。

インタラクティブセッションの登壇者は、一般研究、課題研究、その他の企画にも登壇することができます。

ここで言う「会員」とは、学会事務局が入会申込書の受付（7月からの新年度入会のための申込書の受付を含む）を済ませていることを意味します。ただし、入会申込書の受付を済ませた者の入会時期（入会手続きの完了時期）については、申込及び原稿提出と年会被開催日程が学会の事業年度（毎年7月1日から翌年6月30日）をまたぐ場合、申込及び原稿提出の年度ではなく、年会被開催される新年度からの入会でも可となります。

10. 一般研究発表の申込・原稿提出

(1) 申込及び原稿提出の期限

2012年6月30日（土）

申込と原稿提出を同時に行ってください。

申込及び原稿提出の受付開始日は、決まり次第、学会 Web や科学教育研究レターなどでお知らせします。

(2) 申込及び原稿提出方法

申込者が直接、下記 URL からアップロードしてください。

詳細は「日本科学教育学会 年会論文集 執筆要領」に従ってください。

<https://dev.faeg.jp/jsse/nenkaimenu.php>

(3) 発表資格・発表可能件数

一般研究の登壇者は会員でなければなりません。

登壇者として発表可能な一般研究の件数は、1件です。

一般研究の登壇者は、課題研究、インタラクティブセッション、その他の企画にも登壇することができます。

できます。

ここで言う「会員」とは、学会事務局が入会申込書の受付（7月からの新年度入会のための申込書の受付を含む）を済ませていることを意味します。ただし、入会申込書の受付を済ませた者の入会時期（入会手続きの完了時期）については、申込及び原稿提出と年会開催日程が学会の事業年度（毎年7月1日から翌年6月30日）をまたぐ場合、申込及び原稿提出の年度ではなく、年会が開催される新年度からの入会でも可となります。

11. 年会論文集の電子化

前回の第35回年会と同様に、年会論文集を電子化します。

- ・年会当日は、学会会場の見取り図、プログラムなどが掲載された「年会論文要旨集」を紙媒体で配布します。ただし、年会論文要旨集には、個々の研究の論文は掲載されていません。
- ・従来の体裁・様式を踏襲した「年会論文集」については、紙媒体での印刷・配布は行わず、電子ファイルでご提供いたします。年会当日は、年会論文集の電子ファイルを格納したUSBメモリなどの媒体を参加者の方にお配りします。

12. 年会企画委員会

委員長：山口悦司（神戸大学）

副委員長：加藤 浩（放送大学）、谷塚光典（信州大学）

幹事：松浦拓也（広島大学）

委員（五十音順）：青山和裕（愛知教育大学）、荻原 彰（三重大学）、加藤久恵（兵庫教育大学）、川村康文（東京理科大学）、清水克彦（東京理科大学）、下村 勉（三重大学）、大黒孝文（同志社女子大学）、寺野隆雄（東京工業大学）、茅野公穂（信州大学）、寺田光宏（岐阜聖徳学園大学）、東原貴志（上越教育大学）、二見尚之（湘南工科大学）、松崎昭雄（埼玉大学）、三崎 隆（信州大学）、森田裕介（早稲田大学）、吉川 厚（東京工業大学）、渡辺雄貴（首都大学東京）

担当理事：佐伯昭彦（鳴門教育大学）、高藤清美（筑波学院大学）

用紙サイズ

A4 版用紙縦向きで作成してください。ワープロ書きを原則とします。

ページ数

企画により、ページ数が異なります。

指定のページ数と異なるものは受付しませんので、提出前に必ずご確認ください。

<一般研究>

2 ページ

<課題研究>

発表 1 件あたり 4 ページまたは 2 ページ

<インタラクティブセッション>

2 ページ

<その他の企画>

企画責任者の指示に従ってください。

フォーマット

フォーマットについては、執筆例（Word ファイル）を参照してください。

執筆例は、年会 Web からダウンロード頂けます。

@著者

- ・著者が連名の場合は、登壇者名の前に 印をつけてください。
- ・著者の所属が異なる場合、各著者の氏名と勤務先の右肩に*,**,…… や A,B,C,……などを付して、対応させてください。

@段組

2 段組による作成、段落なしによる作成のいずれでも結構です。

（執筆例（Word ファイル）は 2 段組になっています）

次の文字数・行数を目安にしてください。

- ・2 段組の場合：1 段あたり 20 文字 × 40 行
- ・段落なしの場合：42 文字 × 40 行

@文字サイズ

極小文字の使用はさけてください。

@フォント

Windows または Mac に標準で搭載されているものだけを使用してください。

それ以外を使うと、文字化けが起こり正常に表示・印刷されませんので注意してください。

ファイル形式

PDF のみです。他のファイル形式での提出は受け付けません。

Word 形式も受け付けませんので、ご注意ください。

他のファイル形式で原稿を作成した場合は、必ず PDF に変換してください。

@PDF の留意事項

- ・PDF 作成時に、図表やキャプションの位置が意図しない場所に移動することがあります。作成した PDF を印刷してチェックしたのち、投稿して下さい。
- ・PDF にフォントが埋め込まれているか自信がない場合には、一般的なフォント、文字コードを利用して下さい。文字コードによっては、検索できない場合もあります。
- ・提出していただいたファイルの書式や文字化け等のチェック作業は、年会企画委員会ならびに年

会実行委員会では行いません。

提出方法

企画により、提出方法が異なります。

< 一般研究 >

申込者が直接、下記 URL からアップロードしてください。

< 課題研究 >

オーガナイザーまたは企画責任者がとりまとめて、下記 URL からアップロードしてください。

< インタラクティブセッション >

申込者が直接、下記 URL からアップロードしてください。

< その他の企画 >

企画責任者の指示に従ってください。

原稿アップロード URL

<https://dev.faeg.jp/jsse/nenkaimenu.php>

原稿アップロードに際しての留意事項

@発表題目，著者名，所属

原稿アップロードの際に、Web 上で、発表題目、著者名、所属をご記入頂きます。ご記入頂いた内容が、そのまま、日本科学教育学会年会論文・要旨集、年会 Web などに反映されます。原稿と同一内容であるか、間違いがないかを必ずご確認ください。チェック作業は、年会企画委員会ならびに年会実行委員会では行いません。

@研究概要

100 字以上、300 字以内で、研究概要を記入ください。ご記入頂いた内容が、そのまま、日本科学教育学会年会論文・要旨集、年会 Web などに反映されます。原稿と同一内容であるか、間違いがないかを必ずご確認ください。チェック作業は、年会企画委員会ならびに年会実行委員会では行いません。

@著者全員のメールアドレス

電子版論文集の電子キー発行、参加登録状況などの管理などのため、著者全員のメールアドレスが必要となります。原稿アップロードの際に、Web 上でご記入ください。

@参加申込

発表申込・原稿提出に加えて、Web 上からの参加申込もお願いします。

発表申込だけですと、参加申込が行われていない状態となってしまいますのでご注意ください。

発表資格・発表可能件数

< 一般研究 >

一般研究の登壇者は会員でなければなりません。

登壇者として発表可能な一般研究の件数は、1件です。

一般研究の登壇者は、課題研究、インタラクティブセッション、その他の企画にも登壇することができます。

ここで言う「会員」とは、学会事務局が入会申込書の受付（7月からの新年度入会のための申込書の受付を含む）を済ませていることを意味します。ただし、入会申込書の受付を済ませた者の入会時期（入会手続きの完了時期）については、申込及び原稿提出と年会開催日程が学会の事業年度（毎年7月1日から翌年6月30日）をまたぐ場合、申込及び原稿提出の年度ではなく、年会が開催される新年度からの入会でも可となります。

< 課題研究 >

課題研究の登壇者は会員、非会員を問いません。ただし、1つの企画について、非会員による発表件数は、原則として全発表件数の半数を超えないものとします。

登壇者として発表可能な課題研究の件数は、1件です。

課題研究の登壇者は、一般研究、インタラクティブセッション、その他の企画にも登壇することができます。

< インタラクティブセッション >

インタラクティブセッションの登壇者は会員でなければなりません。

登壇者として発表可能なインタラクティブセッションの件数は、1件です。

インタラクティブセッションの登壇者は、一般研究、課題研究、その他の企画にも登壇することができます。

ここで言う「会員」とは、学会事務局が入会申込書の受付（7月からの新年度入会のための申込書の受付を含む）を済ませていることを意味します。ただし、入会申込書の受付を済ませた者の入会時期（入会手続きの完了時期）については、申込及び原稿提出と年会開催日程が学会の事業年度（毎年7月1日から翌年6月30日）をまたぐ場合、申込及び原稿提出の年度ではなく、年会が開催される新年度からの入会でも可となります。

< その他の企画 >

その他の企画の登壇者は会員、非会員を問いません。

登壇者として発表可能なその他の企画の件数については、別扱いとします。

執筆内容に関する留意事項

原稿執筆にあたっては、次の要件を満たすように心がけてください。

- ・ 研究領域：日本科学教育学会の会員が関心を持つ研究領域の研究である。
- ・ 主題または問題の所在：問題の所在が明快である。
- ・ 研究の背景：関連研究、依拠する理論、関連する実践等によって、研究の背景が明示されている。
- ・ 研究の方法：研究の方法論、手順、計画などが適切で、それらが明示されている。
- ・ 結果と知見：得られた結果、知見、アイデア等が明示されている。
- ・ 結論：問題の所在に即した結論や課題が明示されている。

第 36 回年会での会合

年会の前日、あるいは開催中の夜に、昨年同様、若手同士のネットワークづくりを目的として、お互いの興味・関心や今後の展望を語るという会合を予定しています。

現在、年会企画委員会で検討を進めています。詳細が決まりましたら、学会レター、年会ホームページ、メーリングリストなどでお知らせいたします。お楽しみに。

若手の会メーリングリストのご案内

JSSE 若手の会では、山形大学の加納寛子先生のご支援により、メーリングリストを立ち上げています（加納先生、ありがとうございます）。参加者のみなさんで相互に、国際会議、新刊案内、求人など、研究情報を交換しています。

参加をご希望される方は、下記の要領でご連絡ください。

- ・申込先アドレス（加納先生）：*kanoh [at mark] pbd.kj.yamagata-u.ac.jp*
- ・件名：科学教育学会若手の会 ML 登録希望

また、登録アドレスの変更または削除についても、必ず上記加納先生宛にご連絡くださいますようお願いいたします。

第 36 回年会「若手の会」企画担当委員

青山和裕（愛知教育大学）*kaoyama [at mark] auecc.aichi-edu.ac.jp*

加藤久恵（兵庫教育大学）*katohi [at mark] hyogo-u.ac.jp*

平成 23 年度第 6 回研究会（北陸甲信越支部担当）のご案内

平成 23 年度第 6 回日本科学教育学会研究会（北陸甲信越支部担当）を開催いたします。つきましては、下記の要領で研究発表を募集しますので、ご発表・ご参加のほどよろしくお願い申し上げます。

[主 催] 日本科学教育学会，日本科学教育学会北陸甲信越支部
[日 時] 2012年6月23日(土) 10:00～16:00
[会 場] 信州大学教育学部(長野県長野市)
[対 象] 会員、教員、学生、社会人
[参加費] 無料(発表の有無にかかわらず参加できます。会員でない方もご参加いただけます。)

[申込締切] 2012年4月20日(金)

申込時は、発表者名、所属、発表タイトル、連絡先をご連絡ください。

(液晶プロジェクタとスクリーンは用意いたします。)

[発表原稿締切] 2012年5月18日(金)

[申込及び発表原稿送付(連絡先)]

〒380-8544 長野県長野市西長野6 - 口 信州大学教育学部 谷塚光典

Tel/Fax : 026-238-4245/4242 , E-Mail : [yatsuka \[at mark\] shinshu-u.ac.jp](mailto:yatsuka[at]mark@shinshu-u.ac.jp)

2012年度学会賞候補者の募集

本学会の学会賞：学会賞(大塚賞)、学術賞、国際貢献賞、論文賞、奨励賞及び教育実践賞を下記により募集します。すべての賞は会員からの推薦に基づいて審査されますので、ご活躍の候補者について、多数の推薦をお願い致します。

1. 推薦期限

2012年(平成24年)5月21日(月)(必着)

2. 受賞資格

- (1) 学会賞(大塚賞): 科学教育に対する優れた業績や功績によって本学会の発展に寄与した本学会会員。
- (2) 学術賞: 科学教育において先導的・開拓的な業績や功績を挙げ、本学会の発展に寄与した本学会会員。対象となる業績や功績は、賞の応募締切日から過去10年以内のものとする。
- (3) 国際貢献賞: 科学教育の国際貢献・国際協力研究において特に顕著な業績や功績のあった本学会会員。対象となる業績や功績は、賞の応募締切日から過去5年以内のものとする。
- (4) 論文賞: 科学教育に関する優れた研究を行い、その成果を本学会の「科学教育研究」誌に発表した本学会会員。対象となる論文は、賞の応募締切日から過去3年以内に発表されたものとする。
- (5) 奨励賞: 科学教育に関する優れた研究を行い、その成果を本学会の「科学教育研究」誌、

年会論文集、研究会「研究報告」に発表した本会会員で、受理の時点で、原則として満38歳未満の者。対象となる論文等は、賞の応募締切日から過去2年以内に発表されたものとする。

- (6) 教育実践賞：科学教育の実践研究において特に顕著な業績や功績のあった本会会員。また、該当する本会会員との連携により、科学教育に従事し、教育上顕著な業績や功績のあったグループ。対象となる業績や功績は、賞の応募締切日から過去3年以内のものとする。

3. 受賞件数

大塚賞、学術賞及び国際貢献賞の件数はとくに定めない。論文賞、奨励賞及び教育実践賞の件数は2件以内である。

4. 選考

本学会の学会賞選考委員会が候補者を選定し、理事会が決定する。

5. 賞

- (1) 本賞は賞状とする。
(2) 賞の贈呈は、2012年度定時総会において行う。

6. 候補者の推薦

- (1) 候補者を推薦する者は、本学会の会員とする。大塚賞は他薦のみによるが、その他の賞は自薦も可とする。
(2) 推薦者は、推薦の様式を学会ホームページ（「各種書式」からダウンロードできます）で入手の上、その様式にしたがって作成した推薦書を日本科学教育学会事務支局に提出する。
(3) 奨励賞の推薦に当たり、論文などの著者が複数の場合は、受賞候補者は主著者となるため、他の全著者の承認が必要となる。この承認は、推薦者において予め得ておくものとする。

7. その他

- (1) 論文賞対象論文は、「科学教育研究」Vol. 33、No. 2以降に掲載の論文です。また、奨励賞の対象は、「科学教育研究」Vol. 34、No. 2以降、研究会「研究報告」Vol. 24、No. 4以降及び第34回・第35回年会論文集に掲載の論文が該当します。

編集委員会だより

前回（平成 23 年 11 月 19 日）以降、この間、編集理事会は開催されていませんので「科学教育研究」編集状況の報告のみいたします。

査読状況

1. 新規投稿論文（2011.11.10～2012.1.24）：14 編（内訳：和文 13 編、英文 1 編）
2. 査読中論文（2012.1.24 現在）： 編（内訳：担当編集委員選定中：4 編、査読中（1 回目）：8 編、担当編集委員による総合判定中（1 回目）：1 編、改訂稿待ち：13 編、査読中（2 回目）：7 編）
3. 掲載決定論文（2011.11.10～2012.1.24 現在）：5 編（内訳：研究論文 5 編（通算合計 35-4：4 編、36-1：4 編））

なお、平成 23 年度第 2 回編集理事会は、平成 24 年 3 月 17 日（土）に開催を予定しています。

「科学教育研究」投稿状況および掲載決定状況(平成 24 年 1 月 24 日 現在)

	新規投稿論文数（編）		審査中（編）		掲載決定論文数（掲載号）		招待論文数（掲載号）		掲載不可論文数	
	和文	英文	和文	英文	和文	英文	和文	英文	掲載不可	辞退
2011年 1月	5	0	20	0	1 (35-1) 0 (35-2)	0 (35-1) 0 (35-2)	0		2	0
2月	7	1	20	1	2 (35-1) 3 (35-2)	0 (35-1) 0 (35-2)	0		2	0
3月	9	1	16	2	6 (35-2) 0 (35-3)	0 (35-2) 0 (35-3)	0		3	0
4月	6	1	21	2	3 (35-2) 0 (35-3)	0 (35-2) 0 (35-3)	3 (35-2)		2	0
5月	4	0	19	0	0 (35-2) 1 (35-3)	0 (35-2) 1 (35-3)	0		3	0
6月	7	0	19	0	0 (35-2) 3 (35-3)	0 (35-2) 0 (35-3)	0		6	0
7月	5	1	17	1	2 (35-3) 0 (35-4)	0 (35-3) 0 (35-4)	0		5	0
8月	3	0	15	0	0 (35-3) 2 (35-4)	0 (35-3) 0 (35-4)	0		4	0
9月	16	2	23	2	1 (35-4) 0 (36-1)	0 (35-4) 0 (36-1)	0		7	0
10月	2	1	23	3	0 (35-4) 0 (36-1)	0 (35-4) 0 (36-1)	0		2	0
11月	8	0	28	3	1 (35-4) 0 (36-1)	0 (35-4) 0 (36-1)	0		2	0
12月	2	1	27	4	2 (36-1) 0 (36-2)	0 (36-1) 0 (36-2)	0		1	0
2012年 1月	6	0	29	4	2 (36-1) 0 (36-2)	0 (36-1) 0 (36-2)	0		1	1

国際学会情報

- 1) ICASE (The International Council of Associations for Science Education)が2013年9月29日から10月3日にかけて、マレーシアのクチンにて、第4回科学技術教育国際会議 (The 4th World Conference on Science and Technology Education)を開催します。テーマは「Live Science、Love Learning、Create Change」です。参加申込の受付がスタートしました。詳しくは、大会ホームページ (<http://worldste2013.org/>) をご参照下さい。
- 2) IHPST (International History、Philosophy and Science Teaching Group)の第1回アジア大会が2012年の10月18日から10月20日にかけて、韓国のソウル大学校にて開催されます。テーマは「Exploring Science: Contribution from History、Philosophy and Education of Science」です。発表申込受付中です。詳しくは、大会ホームページ (<http://ihpst2012.snu.ac.kr/welcome.php>) をご参照下さい。

広報委員会からのお知らせ

科学教育研究レター第206号をお送りいたします。お気づきの点などございましたら、学会Webサイトにある「お問い合わせ」(Webメール)をご利用のうえ、お知らせください。

担当理事：荻原 彰 (三重大)	久保田善彦 (上越教育大)
委員：隅田 学 (愛媛大)	土田 理 (鹿児島大) 藤岡達也 (上越教育大)
二見尚之 (湘南工科大)	美馬のゆり (はこだて未来大)
谷塚光典 (信州大)	渡辺政隆 (科学技術振興機構)
幹事：茅野公穂 (信州大)	福井智紀 (麻布大)

科学教育研究レター編集・印刷 日本科学教育学会広報委員会

日本科学教育学会

Japan Society for Science Education

URL : <http://www.jsse.jp>

事務局 愛知教育大学 理科教育講座 内
事務支局 (入退会・会費・学会誌発送関連)

TEL : 075-415-3661 FAX : 075-415-3662
E-mail : [jsse\[at mark\]nacos.com](mailto:jsse[at mark]nacos.com)

中西印刷(株) 学会部 内
編集事務局 (論文投稿・査読編集)

〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル
TEL : 075-415-3155 FAX : 075-417-2050
E-mail : [jsse-hen\[at mark\]nacos.com](mailto:jsse-hen[at mark]nacos.com)

中西印刷(株) 学会部 内 〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル

郵便振替口座 : 00170-6-85183 日本科学教育学会

銀行口座 : みずほ銀行 京都中央支店 普通 2269008 日本科学教育学会